

題検討委員会および将来構想委員会においては、検討課題の一つであることを確認している。

学位申請論文の提出要件として審査制度のある学・協会誌への論文掲載を規定しているところから、従来よりも投稿に対する学生の意欲が高まっていると見ることができる。しかし、学生の研究活動をさらに活性化させるための方策やその成果の達成を確認する方法については、今後の検討にまたねばならない。

(改善の具体的方策)

2000年度に導入した博士学位取得基準に即して、学位申請論文の提出を見通した教育指導の体制を継続することが求められる。また、学生の学修成果を高めるために、学術専門誌への投稿や口頭およびポスター発表などを積極的に行える研究演習指導のあり方を模索するとともに、それらの成果を確認するための調査を行うことについては、その必要性を含めて検討していく。

2.2.3.3 教育方法のあり方

【評価項目 6-3-1】 授業形態と授業方法の関係

(必須要素) 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性

(必須要素) マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性

(必須要素) 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性

<2003 年度に設定した目標>

大学院問題検討委員会における検討や、専攻代表者会議による議論を通じて、教育方法のあり方の改革と改善についてのたゆまぬ努力を継続する。

(現状の説明)

研究演習は当然のこととして、特殊講義、文献研究などにおいても少人数の授業を基本としている。専門分野に応じて、視聴覚機材やパソコンを利用した授業も行われている。授業の成果を踏まえて、電子メールを利用した研究指導、意見の交換、原稿の閲読なども増加しつつある。双方向性をもったマルチメディアの活用として、ホームページでHTML形式を通じた課題の提供を行う教員もあるが組織的なものではなく、現段階では個人的企画の水準にとどまる。なお、文学研究科では遠隔授業は実施していない。

(点検・評価の結果)

少人数を対象とした授業形態と授業方法を通じて、きめ細かな行き届いた指導が継続して実現されている一方、授業方法の改善や工夫に必要な教室設備の改良、新しい機材の購入、旧型機材のリプレイスなど、ハード面での整備は十分とは言えない。とくにコンピュータ関連の対応については、教員、学生の授業利用という面で遅れている。

客観的な授業評価のあり方を、その必要性の有無を含めて議論することについては、な

お未着手の状況にある。

(改善の具体的方策)

教室設備の改善、機材の購入、旧型機のリプレイスなど、ハード面での整備について、文学部との連携をはかりながら対応を検討する。大学院問題検討委員会を通じて、授業評価のあり方について議論する。

2.2.3.4 教育成果のあり方

【評価項目 6-4-1】 教育効果の測定

(必須要素) 教育・研究指導の効果を測定するための方法の適切性

(選択要素) 修士課程、博士課程修了者(修業年限満期退学者を含む)の進路状況

(選択要素) 大学教員、研究機関の研究員などへの就任状況と高度専門職への就職状況

【評価項目 6-4-2】 厳格な成績評価の仕組み(成績評価法)

(必須要素) 学生の資質向上の状況を検証する成績評価法の適切性

<2003年度に設定した目標>

新しい博士学位取得基準の適正な運用を通じた課程博士の育成を一層推進することにより、後期課程の教育成果をさらに高める。

(現状の説明)

2000年度から実施している新しい博士学位取得基準によれば、後期課程では「博士論文計画書」「博士予備論文」「博士学位申請論文」という三つの段階を経て博士学位の取得に至ることになる。その場合、最短では後期課程第1学年度の秋学期に「博士論文計画書」を提出、同第2学年度秋学期に「博士予備論文」を提出することになるが、博士論文計画書に対しては指導教授の承諾書が、博士予備論文に対しては指導教授(必要に応じて副指導教員が加わることもある)の審査報告書における合格が、それぞれ次の段階への不可欠の要件をなしている。承諾書の提出および審査報告書における合否の結果は、研究科委員会を通じて報告される。このような過程を経ることによって、各段階にいたる研究指導の適切性と、博士論文に向かう研究の進捗を確認することが可能となる。

学部における「成績評価方法一覧表」に相当する、前期課程および後期課程における成績評価の方法のマニュアル化は行っていない。10専攻からなる多様な専門領域を包括的に扱う基準を設けるよりは、それぞれの領域においてきめ細かい個別的な指導が重視されること、とくに後期課程においては、博士学位取得基準の適切な運用が、実質的な成績評価基準をなすこと、などがその理由である。

(点検・評価の結果)

2002年度、2004年度の「博士論文計画書」および「博士予備論文」の順調な実績が報告されているように(「2.2.3.6 学位授与・課程修了の認定」参照)、新しい博士学位取得基準は適正な教育成果の確認とフィードバックを可能にする基準として十分に機能してい